

「イエス様、助けてください」  
マタイの福音書 14章22-33節

## はじめに

今朝は、イエス様のご生涯の中から、イエス様が水の上を歩かれた出来事から学びましょう。

### I. イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に行かせ (22)

あるとき、イエス様は、ガリラヤ湖で弟子たちを無理に船に乗り込ませ、ご自分より先に向こう岸に行くようにお命じになりました。そして、ご自分は、一人で山に登り、夕方までそこで祈っておられました。何を祈っておられたのでしょうか？ 興味深いところですね。ご自分のためにも祈られたと思います。十字架で死なれる前に、ゲッセマネの園で祈られました。そのときは、「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください」と祈られました（マタイ26:39）。そして、イエス様はあるときペテロに「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈りました」と言われました。（ルカ22:31-32）ですから、このときも、「ご自分が神様のみこころに従いとおせるように、そして、弟子たちの信仰がなくなるように」祈られていたのではないのでしょうか。イエス様は、私たちのために祈ってくださいます。

弟子たちの乗った舟は、陸から何キロメートルも離れていましたが、向かい風に遭い、波に悩まされておりました。ガリラヤ湖は東西を高地に囲まれた谷底のような所にあつたので、しばしば突然の嵐に見舞われたようです。この時も、船出したときは風もなかったのでしょうか。

### II. すると、夜中の3時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた(25)。

そのとき、イエス様は水の上を歩いて弟子たちのところまでいかれました。この所を読むと、人々は、「水の上を歩くことなど、出来るはずがない」と言います。その通りです。人間は、水の上を歩くことは出来ません。イエス様も人間ならば、歩くことは出来ないでしょう。でも、ここで、イエス様は、ご自分が「神」でもあることを弟子たちにお示しになったのです。

弟子たちは、「あれは幽霊だ」と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げました。弟子たちですら、それがイエス様であるとはわかりませんでした。すると、イエス様は、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れる

ことはない」と言われたのです。

私たちも、最初は神様やイエス様のことが分かりません。そこで、おびえたり、恐ろしく思ったりすることもあります。けれどもイエス様は、「わたしだ。恐れることはない」と言ってくださいます。

### Ⅲ. すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください」（28）。

ここの所は、私たちが信仰に入るときの時とよく似ていて、学ぶことが多いです。

弟子のペテロは、「私に水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください」とイエス様に言いました。「自分だって水の上を歩ける」と思うことがすごいですね。ペテロは、それだけイエス様を信じたのです。

私たちも、自分もクリスチャンになれる、救われると信じて、イエス様の所に行きます。その信仰が大切なのです。

イエス様は、「来なさい」と言われました。ペテロの動機も、無謀と思われる行為も馬鹿になさらず、「来なさい」と言われました。私たちの信仰の動機は自分勝手にほめられたものではないかもしれません。私のように、宣教師からただで英語を習得するからという身勝手な動機もあります。それでもイエス様は、「来なさい」と言ってくださいます。

ペテロは、水の上を歩けました。私たちも、クリスチャンとして歩みだせませす。ところがです。ペテロは、風を見て、怖くなり、沈みかけました。ペテロが沈みかけたのは、「風を見た」からです。イエス様か目を離したのです。

私たちも、クリスチャンとして歩み始めたのに、途中で、人から「それでもクリスチャンか」と言われたり、「もっとお金がほしい」「遊びたい」などなどと思ったり、人々の非難や世の誘惑に遭い、イエス様から目を離すと沈みかけるのです。

しかしペテロは、「主よ。助けてください」と叫びました。それまで、ペテロは、かっこよかったのです。ほかの弟子が出来ないようなことをして、水の上を歩いたのです。しかし今、みっともなく沈みかけました。ペテロは、恥も外聞も捨てて、イエス様に「主よ。助けてください」と叫びました。

私たちも、沈みかけます。牧師も沈みかけることがあります。長老も、執事も沈みかけます。どんな信徒も沈みかけることがあるのです。皆さんにはそんな経験はありませんか？ そのとき大切な事は、恥も外聞も捨てて「主よ。助けてください」と叫ぶことが立ち直りにつながるのです。

### Ⅳ. そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか」（31）。

するとイエス様は、「すぐに手を伸ばして、彼をつかんで」くださいました。

イエス様は、かつて弟子たちに「わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません」と言われました（ヨハ6:37）。イエス様は、弟子をお見捨てになることはないのです。

イエス様は、必ず、私たちを助け、引き上げてくださいます。ただ、イエス様はペテロにこう言われました。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか」。どんなに風が強くて、イエス様を見上げて歩けば、歩けるのです。しかし、ペテロは、どうして沈みかけたのでしょうか？ それは、風を見たために恐ろしくなり、疑ってしまったのです。

イエス様は、どんな時にも私たちを助けてくださいます。ただ、「なぜ疑うのか」と叱ってくださいます。

ペテロとイエス様が船に乗ると、風はやみました。平安が戻ったのです。そして、弟子たちは、イエス様を拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言ったということです。イエス様は、「神の子」です。イエス様は、水の上を歩くことによって、弟子たちにご自分が神の子であることをお示しになりました。

## まとめ

では、なぜ、人となってこの世においでになったのでしょうか。それは、私たちを罪から救ってくださるためです。なぜ、罪から救われる必要があるのでしょうか。それは私たちの悩みや苦しみのほとんどが、私たちの罪から来るからです。私たちの汚い心や思いが私たちを悩ませ、苦しませるのです。なぜ、人は罪を犯すのでしょうか。それは、神を認めず、神をそして、礼拝せず、従わないからだ、聖書は教えています。もし神を信じないで、神の元に帰らなかったら、私たちはやがて自分の罪のために滅びるほかはないのです。

そこで、神様は、人をその苦しみと滅びの元である罪から救うために、神様の御子をこの世にお遣わしになりました。それがイエス・キリストです。

イエス様は、嵐の湖を歩いて弟子たちの所に来られたように、神様の元を離れて、罪に苦しむ私たちの所まで来てくださったのです。弟子たちが幽霊だと思ったように、当時の人々は、イエス様がだれであるかわかりませんでした。それで、ご自分を神のことするイエス様を、神を冒瀆する者として十字架にかけて殺してしまったのです。しかし、それも神様のご計画の中にありました。

実は、神の御子が人間になったのは死ぬためでした。神は、死ぬことはできません。しかし、人間は死にます。イエス様は人間の犯した罪の身代わりとして死に、神の裁きを受けるために人となられたのです。死んだイエス様を神様は三日目に生き返らせました。そしてイエス様は神様のもとにお帰りになりました。今は、神のもとにおられて、私たちを待っておられます。

ペテロのように、「助けてください」と言うなら、イエス様は手を伸ばして私たちを救ってくださいます。今、勇気を出してイエス様のもとにいきましょう。